

## 地域の力で子どもたちを育てよう！ 《小学校スポーツの変革》 《小学校運動部活動の社会体育化》

問い合わせ

スポーツ課体育係  
☎ 43-7136  
学校教育課学事係  
☎ 43-7112

子どもたちを取り巻くスポーツ環境は、少子化の影響などにより「チームが組めない」「自分のやりたい競技を選択できない」など、様々な課題が現れています。その解決策として目指すのが、大人や地域が支える「小学校運動部活動の社会体育化」です。

連載特集3回目の今回は、実際に小学校の部活動から「地域団」として移行し、活動しているスポーツ少年団を紹介します。

### 子どもたちの声はこう

#### 【上川沿MBBスポーツ少年団】

小学校運動部として活動していた「男子ミニバス部」。児童数の減少などにより活動が困難となり、活動休止になりましたが「バスケットボールを続けたい！」という子どもたちの思いに保護者たちが立ち上がり、5年前にスポーツ少年団を立ち上げました。

現在の団員は

3年生を含め10人と少数ですが、経験豊富で熱心な指導者に支えられ、楽しく活動しています。



団員が指導を受ける

#### 【クラブの現況】

団員数 3年生(2人)、4年生(2人)  
5年生(1人)、6年生(5人)  
活動場所 上川沿小学校体育館  
活動日 月・水・金・土曜日  
活動費 月額1500円

### インタビュー①

#### 上川沿MBB指導者

関本宏司さん



Q 指導者を引き受けた経緯は？

『市ミニバス協会を通じて保護者から依頼がありました。秋田市に住んでいたときもスポ少の指導者をしていたので、今度は「大館の子どものために！」と思い引き受けました。』

Q 活動して感じる課題は？

『団員が少ないので他学区と合同で活動できれば良いと思います。ただ、合同チームでの大会出場は、規定が厳しく、参加資格の緩和が望まれるところ。また、活動場所の確保や活動時間も課題だと感じています。』

Q 指導で気を付けていることや指導者としてのやりがいは？

『元氣なあいさつや礼儀をしっかり身に付けさせたいと思っています。また、忍耐力など人間形成に役立つよう

な活動と指導を心掛けています。教えた子どもたちが中学校や高校でもバスケットを続け、活躍する姿を見ることは、何事にも代えられない喜びであり、指導者としての幸せを感じます。』

### 今、子どもたちが始めるよ

#### 城西野球スポーツ少年団

#### 【レッドフェニックス】

24年度に城西小学校野球部から地域団へと生まれ変わったのが城西野球スポーツ少年団です。

学校側から小学校運動部活動の社会体育化移行についての説明を受け、保護者会で検討を重ねた結果「子どもたちのため、今できることから始めよう」を合言葉に活動を開始しました。

現在は、学校の協力も得ながら、先生と保護者で分担して指導に当たるなど、地域スポーツ少年団としての活動を一步一步進めています。

#### 【クラブの現況】

団員数 4年生(5人)、5年生(9人)、6年生(10人)  
活動場所 城西小学校グラウンド  
活動日 週4日程度  
活動費 年間7千円



保護者が携わる練習

### インタビュー②

#### 城西野球スポーツ少年代表

若松清勇さん



Q 社会体育化して良かったことは？

『保護者の意識が変化し、練習に協力する保護者が増えたことです。それによって、学年・レベルごとの練習が可能になり、効率的で充実した活動ができるようになってきています。』

Q 社会体育化移行後の課題や要望は？

『保護者の大半が、17時過ぎまで仕事です。日没までしか練習ができないので、早い時間帯の指導者確保に困難を感じています。PTAからの補助等がなくなるので、市からのスポ少登録料の補助等をお願いしたいです。』

Q 今後の抱負は？

『社会貢献活動や他のスポーツも経験させたいです。勝利至上主義にならず、常に健全育成に向かうよう気を付けていきたいです。また、地域が色々な形で活動に参加できる組織を目指したいとも思っています。』

#### 次回8月号は最終回です。

○競技団体や施設関係者など、スポーツに携わる様々な人に、社会体育化についてインタビュー！  
「私の描く社会体育化」です。